

健康・スポーツ科学専攻（修士課程）		分野区分	1年				2年					
			前期		後期		前期		後期			
D P1 ： 知 識 ・ 理 解	1-1	欧米の論文を読んで研究の知識を深め、最新の情報を得ることができる。	論文作成 研究科目	DP	1, 2	1~3	1~3	1	1, 3~5	1~3	1~3	1
			科目名		課題研究Ⅰ				課題研究Ⅱ			
	1-2	修士論文の作成に不可欠な「研究のプロセス」、「統計手法」及び「研究スタイル」に関する基礎的知識を得ることができる。		DP		2	1					
			科目名		研究倫理							
	1-3	幅広い年齢層における一次予防を目的とした運動処方や現代社会において要請度の高いフィジカル・レクリエーションに関する知識、さらに二次予防として種々の病態に相応しい運動療法について、高度な医科学的知識に加えて行動科学的な手法が理解できるようになる。		DP	3, 4	3	1	3, 4	3	1		
		科目名		スポーツ科学総論				健康科学総論				
1-4	発育期におけるより専門的な科学的理論に裏づけられた運動発達のプロセスやトレーニングの原則、スポーツ傷害の予防及び回復に関する高度な医科学的知識や競技力向上のための優れたコーチングとスポーツ生理学・バイオメカニクス・心理学等の科学的なトレーニング理論が理解できるようになる。		DP	2	1, 2	1		2				
		科目名		スポーツ・リハビリテーション科学 研究法				身体運動評価学実習				
1-5	運動機能障害及び運動機能回復分野に関連する諸問題をリハビリテーション科学の学術的知見に基づき、総合的に理解できるようになる。また、それらを基盤として基礎的研究から臨床的应用へと幅広い研究に対応できる知識を身につける。さらに、細胞生物学や分子生物学のレベルから、運動機能障害が生じる分子メカニズムが理解できるようになる。		DP	3	1						1	
		科目名		スポーツ生理学特論				機能解剖学特論				
			DP				5	2, 3				
		科目名						スポーツリハビリテーション学特論				
D P2 ： 技 能 ・ 表 現	2-1	安全に運動を実施するための運動負荷試験をはじめ効果的な運動プログラムが作成できるようになる。また、身体活動及びストレス・マネジメントなどの健康行動科学に関連する実験・調査と適切な統計処理ができるようになる。さらに、レジャー・レクリエーションの研究で多く用いられる調査・分析方法を身につける。	健康・ス ポーツ教 育学分野	DP	4	2	1	1	1	2	2	1
			科目名		保健体育科教育学特論				保健体育科教育学演習			
	2-2	学校教育現場において解明しようとする課題を設定してデータを収集・解析し、論理的に組み立てて一定の知見を得る能力を身につける。また、スポーツ競技における種々の動作分析とデータの教理的解釈ができ、スポーツの傷害予防や競技力向上のための研究に貢献する思考・技術を身につける。さらに、スポーツの適切なコーチングを推進するための目標・課題の設定法を理解し、課題解決手段や計画立案法及び効果的なコーチングの実践能力を身につける。		DP	4	2	2	1	4	2	2	1
			科目名		スポーツ教育学特論				スポーツ教育学演習			
	2-3	身体運動機能系障害に対するリハビリテーション（理学療法学的）の評価と介入に関する技術を習得し、さらに客観的データに対する統計処理ができる。さらに、運動機能障害や運動失調症についての細胞生物学・分子生物学の手法を用いた解析法を習得することができる。		DP	3	1		1	3	1		1
		科目名		健康体力学特論				健康運動学特論				
D P3 ： 思 考 ・ 判 断	3-1	研究テーマを絞り込んだ社会的背景と研究課題の成果を合理的かつ論理的に思考することができる。		DP	3	1		1	3	1		1
			科目名		健康行動学特論				健康運動学演習			
	3-2	研究課題を解決するための実験・調査の条件を計画的に絞り込むことができる。		DP	3	1		1	1, 3	1	2	1
			科目名		レジャー・レクリエーション学特論				健康体力学演習			
	3-3	論理的思考でプレゼンテーションやディスカッションができる。		DP					1, 3	1	2	1
		科目名						レジャー・レクリエーション学演習				
D P4 ： 態 度 ・ 志 向 性	4-1	本研究科では、学校教育現場をはじめスポーツ競技選手、さらに身体機能障害及び身体機能回復に関する人を対象とした研究を推進している。そのため、人を思いやり、人の立場に立って物事を考えることができる高い倫理観に支えられた規律のある態度で研究に臨み、それぞれの研究目標の実現に向け、主体的・論理的・実行力をもって努力することができる。	ス ポーツ ト レ ー ニ ン グ 科 学 分 野	DP	4	2		1	4, 5	2		1
			科目名		運動制御学特論				スポーツ傷害学特論			
	4-2	動物実験を伴う生命科学的研究は、人の健康・福祉、さらに先端医療の発展などにおいて必要な手段である。本研究科では、「武庫川女子大学動物実験規程」を遵守し、動物実験の適正な運用のもとで研究に臨むことができる。		DP	1, 4	2	2	1	1, 4	2	2	1
			科目名		運動制御学演習				スポーツ傷害学演習			
				DP	4	1, 2		1	1		2	
		科目名		スポーツ心理学特論				スポーツ心理学演習				
			DP	1	1	1, 3	1	4	2		1	
		科目名		スポーツトレーニング科学特論				スポーツコーチング特論				
			DP					1, 4	2	2	1	
		科目名						スポーツコーチング演習				
			DP									
		科目名										
			DP	5	3	2	1	1, 5	3	2	1	
		科目名		運動機能障害学特論				運動機能障害学演習				
			DP	5	3		1	1, 5	3	2	1	
		科目名		分子機能回復学特論				分子機能回復学演習				
			DP	5	3		1					
		科目名		リハビリテーション医学特論								